

6月の植物

クマノミズキ (ミズキ科ミズキ属)

学名 : *Cornus macrophylla*

ミズキ (水木) は、樹液が多く、春先に枝を切ると、切口から樹液が滴り落ちることが和名の由来となっている。本種は、熊野地方に生育するミズキということで、和名がつけられた。熊野地方とは、和歌山県南部と三重県南部からなる紀伊半島南端部であるが、本種は、熊野地方のみに生育しているわけではなく、本州・四国・九州と広く分布し、本県内の各地でも確認できる。

本種によく似たミズキは、葉が互生につくが、本種は、葉が対生につくことで区別できる。また、開花時期もミズキとは異なり、ミズキよりも1カ月ほど遅く開花する。

ミズキ科には他にも、梅雨時期の群生地では山を白く染めるヤマボウシや、庭木や街路樹として植栽されているハナミズキがある。

また、地名とミズキの和名を持つ植物として、ヒュウガミズキ (日向水木)、トサミズキ (土佐水木)、コウヤミズキ (高野水木)、キリシマミズキ (霧島水木)、ヒゴミズキ (肥後水木) があるが、これらはミズキ科ではなく、マンサク科に分類されている。

ミズキは、材が白色で加工しやすいため、器や下駄、はし、細工物などに利用されている。有名な鳴子こけしは、材料としてミズキが多く使われており、宮城県鳴子町ではミズキを植栽して育てられている。ミズキと比べると、本種はあまり利用されていないようだが、器具材や薪炭材としての利用があるとのこと。

今月の例会場所である鳥栖市朝日山でも開花している本種を観察できると思います。

(古賀保匡)



(撮影 古賀保匡 鳥栖市朝日山)